

横浜市では

障害のある人たちや
その家族、支援者、地域住民と行政が
協力し合って、障害のある人たちが
地域で自立した生活を送るための施策をともに考え
一緒に進めていく
という姿勢を大切にしています

行政や市民の皆さんと

“誰もが自らの意思により自分らしく生きることができるまちヨコハマ”を

実現するために

ともに力を合わせて活動してくれる人を

心からお待ちしております



福祉の仕事 してみませんか？

かながわ福祉人材センター

検索

「障害福祉の仕事」の
プロモーションムービーを公開しています。
(横浜市のホームページ)



「豊かに生きる」が仕事です。

YOKOHAMA



福祉の仕事

障害福祉施設で働く

with Work Life Balance

ウィズ・ワーク・ライフ・バランス

障害のある人の暮らしをみんなで支えています。

障害福祉とは、障害のある人が住みたいと思う場所で希望に合った暮らしを
安心して続けることができるように支えることです。

障害にはさまざまな種類があり、外見だけではわからないものもあります。
生まれたときから障害がある人もいれば、病気や事故などで発生する場合があります。

種類もさまざまで、同じ障害でもその人によって状態や症状が異なります。

そのため、求めている支援や想いも人それぞれです。

障害福祉の仕事は、その人に合ったさまざまな支援を通して、

障害のある人の暮らしを支えるとともに、

その人たちの個性や想いに触れることができる、魅力ある仕事です。

-City of Yokohama-

障害福祉の仕事の魅力

★人の役に立っていることを実感できる

障害のある人への支援を通して、自立した生活に向けて頑張る姿やその成果を目の当たりにすることや、本人やご家族から感謝されることも多く、人の役に立っていることを実感しやすい仕事です。



★人との関わりによる成長を実感できる

障害のある人がどのような想いを持っていて、それを実現するためにどのような支援が必要なのか、仲間たちと一緒に考えます。そのためには、まずはその人と向き合い、相手を知ることから始まります。このような経験を通して、自分の視野や価値観が広がり、成長を実感しやすい仕事です。



★専門的な知識等の習得による成長を実感できる

仕事をしながら専門的な知識や技術を身に付けることができます。また、実務経験を積むことによって取得できる資格もあります。

★未経験でも働ける

障害福祉の仕事は、資格や経験がなくても働ける職種があります。実際に多くの未経験者や他業界からの転職者が働いています。



★多様な働き方ができる

勤務形態は、事業所の運営や提供されるサービスに応じて異なります。シフト勤務を行う事業所もあります。働く人のライフスタイルに合わせて勤務形態を選ぶことが可能です。



★SDGsに貢献できる

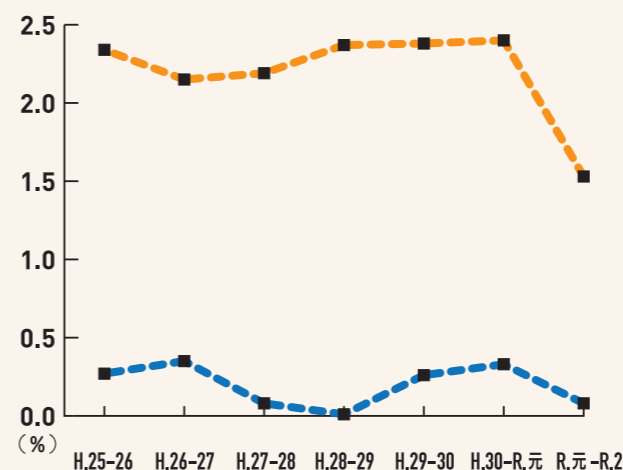
障害福祉の仕事は、社会貢献度が高く、重要な役割を担っています。「誰ひとり取り残さない」というSDGs(持続可能な開発目標)の理念や多くの目標に深く関係していることから、社会の未来をつくる仕事ともいえるでしょう。



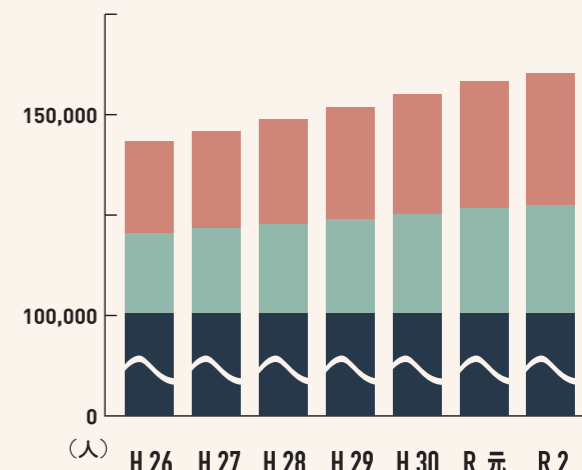
平成26年からの横浜市の人口と障害者手帳所持者数の比較



* 横浜市人口増加率と障害者手帳所持者の増加率(前年度比)



* 障害者手帳所持者内訳



--- 障害者手帳所持者の増加率
--- 横浜市人口増加率

■ 身体障害者
■ 知的障害者
■ 精神障害者

ここ数年は、障害者手帳所持者数の増加率が人口増加率より大きく、障害者手帳を所持する方の割合が増えています。



★安定した将来性がある仕事

支援の必要な人がいる限り、障害福祉の仕事はずっと必要とされる仕事です。また、働く人の待遇改善は国を挙げて取り組んでおり、長く安定して働くことができます。

福祉・介護職員(常勤)の平均給与 ※令和2年2月

約 **32万円** / 月額

※厚生労働省調査(令和2年度)、福祉・介護職員処遇改善加算Iを届け出ている事業所、手当・ボーナス含む。

障害福祉サービス等の仕事内容

それぞれの暮らしの場面で様々な支援の仕事があります。

● 相談支援

本人や保護者の意向に基づき、その人に合った障害福祉サービスの利用計画案を作成し、定期的な状況チェックや計画の見直しを行います。

また、病院に入院中等の精神障害のある人が地域での生活に移行できるように相談に乗ったり、緊急事態等における相談や他の事業所等との連携による支援を行います。
【計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援】



● 自宅で暮らすための支援

自宅で暮らす障害のある人の入浴やトイレなどの身体介護や調理・掃除・洗濯などの家事、通院の付き添いを行います。また、一人暮らしの人に定期的な訪問や随時の対応で把握した日常生活の課題に対して、助言や付き添いなどを通して自立に向けた支援を行うサービスもあります。

【ホームヘルプ（居宅介護）、重度訪問介護、自立生活援助】



● 外出のための支援

移動が困難な人の外出に付き添い、必要な情報を提供したり、危険を回避したりする支援を行います。

【同行援護、行動援護、ガイドヘルプ（移動支援）】

● 自立に向けた訓練・就労系の支援

自立した日常生活又は社会生活ができるよう、身体機能・生活機能の維持・向上のために必要な訓練の実施、就職に向けた企業等での実習や職場探し、さらに就職後も職場で長く働き続けられるように支援します。

また、企業等で就労することが難しい人に対しても、就労や生産活動などの機会を提供します。

【自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、地域活動支援センター】



● 日中活動の支援

常時介護が必要な障害のある人に、食事や入浴などの介護を行うとともに、創作的活動や生産活動などの機会を提供します。また、家族が病気になった場合など、一時的に障害者施設等を利用することが必要な人に、日中または宿泊で見守りや介護等の支援をします。

さらに、病院等に入院している人に対する日中の支援として、機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護や日常生活上の援助等を行います。

【生活介護、短期入所、日中一時支援、療養介護】



● 自宅以外で暮らす人のための支援

施設等で住まいの場や共同生活を営む場を提供し、夜間や休日に入浴や食事等の介護、日常生活上の援助等を行います。

また、地域での生活に移行するために、生活能力等の維持・向上のための訓練等による支援もあります。

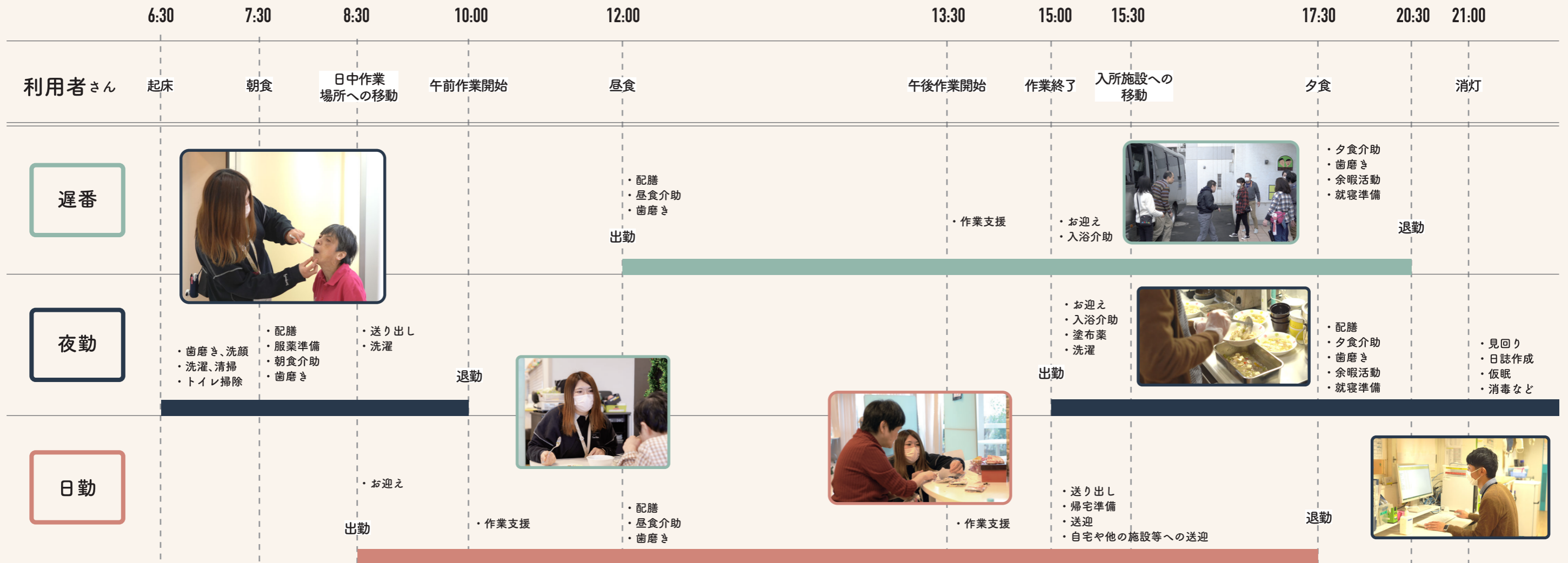
【グループホーム（共同生活援助）、施設入所支援、宿泊型自立訓練】



● その他、障害児を対象としたサービスもあります

1日の業務の流れ (例)

※障害者支援施設で生活支援員として働く場合の例です。

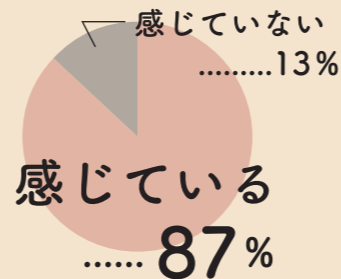


職員の声

※障害福祉サービス事業所で働く若手職員を対象としたアンケート調査結果より

【仕事へのやりがい】 約87%が「感じている」と回答！

やりがいを感じる理由としては、「日々学ぶことが多く、成長できる」「人の役に立つことができる」「職員の連帯感、チーム力が高い」「とにかく仕事が好き」などが多く挙げられました。やりがいを感じない理由としては、「給料・手当・福利厚生に不満がある」を挙げる人が多くいました。この社会的課題に対しては、国を挙げて積極的な待遇改善が進められています。



【大変だと思うこと】

- 支援に答えがないこと
 - 命を預かる、その人の人生に関わるという責任があること など
- なにがその人にとっての幸せなのか、その人に合った支援方法は何か、ということを日々考えます。

【働きやすさ】 約83%が「働きやすい」と回答！

働きやすいと感じる理由としては、「人間関係・職場の雰囲気がよい」「ワークライフバランスが整っている」などが目立ちます。一方で、「働きづらい」と回答した人の中には、その理由を「人間関係・職場の雰囲気がよくない」とする人もいました。ぜひバイトしてみたり、見学に行ってみたりして、職場の雰囲気を感じてみてください！

【仕事とプライベートの両立】

